

SKY コーナー

2023年 第53回東海安全推進大会

— 『見て 聞いて 触って』
危険への 『気づき&再確認』 —

情報通信エンジニアリング協会 東海支部

1. はじめに

情報通信エンジニアリング協会東海支部の東海安全推進大会は、参加した方がすぐに現場で役立てていただけるよう、十数年余り前の第34回から「参加者全員の体感実施による現場力の向上」をテーマに実施してきました。

今大会についても「参加者全員による体感実施」の基本コンセプトを継続しつつ、NTT西日本東海グループ様とITEA東海支部との共催で、名古屋市内の「吹上ホール」にて実施しました。大会には、東海エリアにおけるNTT西日本グループ各社の社員およびITEA東海支部会員会社各社の社員、展示メーカー様等スタッフ、見学者を含め約600名に参加していただき、有意義な安全推進大会を実施することができました（写真1・2）。

以下に2023年度 東海安全推進大会の概要について紹介します（表1）。

2. 今大会のポイント

今大会では、2022年度発生した重篤事故（落下、転落等）を中心とした危険を体感できる場として危険体感を拡大しました。また、前大会の参加者アンケートで「展示体感コーナーを体感する時間が少なかった」という意見があったことから、より多くの方が参加できるよう、コンテンツ内容や運営を見直し、体感時間を拡大しました。さらに展示コーナーの見学時間に、フリーで体感できるコンテンツを新たに追加し

ました。

3. 開会式

開会式は、吹上ホールのメインホールにて行いました。開会にあたり、西日本電信電話株式会社 東海支店 安部支店長様から以下のご挨拶をいただきました（写真3）。

「本日は、静岡英和学院大学 重森 雅嘉様にお越しいたごき、ヒューマンエラーの認知科学をテーマとしてご講演いただきます。誠にありがとうございます。また、今年度もす

表1 2023年度 東海安全推進大会の概要

1. 日 時	2023年10月4日（水） 9：20～16：35
2. 場 所	吹上ホール（愛知県名古屋市）
3. 主 催	西日本電信電話(株)名古屋支店および（一社）情報通信エンジニアリング協会東海支部との共催
4. 参加者数	合計606名
5. スケジュール	
・ 9：20	開会式
・ 9：30	安全講話
・ 10：20	各ツアー体感およびフリー体感コーナーの紹介
・ 10：50	各班に分かれ、ツアー体感およびフリー体感の実施、展示コーナーの見学
・ 11：50	昼食、休憩等
・ 12：40	各班に分かれ、ツアー体感およびフリー体感の実施、展示コーナーの見学
・ 16：00	Webアンケート記入
・ 16：25	閉会式、安全唱和
・ 16：35	終了



写真1 開会式模様 ステージ



写真2 開会式模様 参加者席



写真3 NTT西日本 東海支店 安部支店長様 開会挨拶

で台風がいくつか発生し、各地で被災しております。特に台風6号では、沖縄エリアで故障在庫が一時期90倍を超える状況となりました。エリアを跨いで広域支援として、東海からも通信建設会社の皆様、フィールドテクノの皆様、故障修理班の皆様に沖縄に行ってくださいました。改めてこの場をお借りして御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

本大会の開催にあたり、NTT西日本グループ、情報通信エンジニアリング協会、通信建設会社の多くの社員の皆様にスタッフとしてご協力をいただいております。この場をお借りして重ねて御礼申し上げます。今大会は昨年に続き、現地で体感ができる開催になりまして、今年は体感者240名、スタッフ140名、展示メーカー様150名の合計530名の方々に参加をいただいております。危険体感、事故発生メカニズムの理解ができる非常に貴重な機会だと思います。今回は昨年からの反省や皆さんからのご意見もいただき、多くの方が体感できるようフリー体感として時間枠に関係のないコンテンツとして準備しておりますので、多くの皆様に体感いただければと思います。

今年度の事故を振り返ると、9月末現在NTT西日本エリアでは人身事故が4件発生しています。昨年同じ時期で15件発生していましたので、大きく減少している状況です。まだ東海エリアでは今のところ発生していないということで、皆様の安全意識が非常に高くなっている状況かと思えます。昨年人身事故が17件ありましたが、内2件の死亡事故が東海で発生したことは、皆様も記憶にあらうかと思えます。2023年1月静岡東部エリアの電柱抜去作業中、穴掘建柱車にて電柱吊り上げ操

作をしていた作業員が、電柱に強打されてお亡くなりになるという非常に痛ましい事故でした。作業員の皆さん相互のコミュニケーション不足、作業手順に沿った適正な施工というものを遵守していれば防げた事故だったと思えます。安全の基本動作を徹底して、作業現場では1人ひとりが危険感度を高めて、自分の命は自分が守る、仲間の命も自分が守る、こういった強い決意を持って、事故ゼロに向けて取組みをお願いしたいと思います。NTT西日本統一安全スローガンにもあるように「私たちは過去の事故を教訓に類似事故を絶対に起こしません」を教訓として、これ以上悲しい事故を発生させないように、NTTグループ、情報通信エンジニアリング協会様、通信建設会社様が一丸となって事故防止に向けて取り組んでいきたいと思えます。

引き続き、情報通信エンジニアリング協会 東海支部の玉村支部長から以下のような挨拶がありました(写真4)。

「まず日頃から猛暑の中、第一線で頑張っている皆さん、本当にありがとうございます。

インフルエンザやコロナが若干流行りつつある中頑張っていたのだと、先ほどありましたように今回の台風で沖縄に行かれたり、東海でも災害復旧に携わってこられた皆様、本当にありがとうございます。皆さんのおかげで、この情報通信の設備やサービスが維持できているのは、頭の下がる思いでございます。ありがとうございます。

本日はあいにくの雨ですが、現場第一線で働いている皆様方は雨も関係ありません。今日は雨の日の危険体感ということでやっていただきたいと思えます。台風は駄目ですが、雨が降ろうが雪が降ろうが現場の方

は仕事をされていますので、それをちゃんと体感するということが、これをぜひやっていただきたいと思えます。

今回の安全推進大会でございますが、NTT様は経費削減等、大変な時期になっておられます。これだけの規模で、これだけの体感を全員が行う安全大会は、西日本ブロックの中でも東海だけです。安部支店長に「今回どうしますか」と相談したら先ほどもありましたように、昨年度は東海で2件の死亡事故がありました。安部支店長の強い思いで、「もう、東海で人身事故、死亡事故は二度と起こしたくない。だからこの大会をぜひやりたい。皆さんに体感していただいて、事故をゼロにしたい」という強い思いで敢えて決断していただきました。他のところを見ていただくと、経費削減等でこういった形でやっているところが少なくなってきました。安部支店長の思いを込めてぜひ皆さんには体感していただいて事故を起こさないように、私達も事故を起こさないように取り組んでいきたいと思えます。

事故を起こされた方がよく言われるのが、「自分だけは大丈夫だ」、「今まで起こしていないから事故は起きない」、「事故は起きないと思っていました。でも、起きちゃいました」、事故が起こらないことはありません。事故はどうしたら起こるのか、安全知識を身に付ける事と、後は経験なんです。その1つの方法が体感



写真4 ITEA東海支部
玉村支部長 開会挨拶

だと思っています。こういう事をしたらこんな危ない事になる。こんな怖い目に合う。これも1つの経験だと思しますので、ぜひ今日ご参加の皆さんは、いろいろな体感を自ら体験していただきたいと思ひます。

最後になりますが、情報通信エンジニアリング協会も変わってきました。今まではNTT様の設備の工事や保守を行ってきましたが、NTT様自体もICTに取り組みようとしています。私共も設備を作る、守るは当然の事ながらICTについても技術力を付けて、皆さんと一緒にNTT様のベストパートナーとなるよう日々研さんして参りたいと思ひますので、ぜひご指導をよろしくお願ひいたします。これから安全についてもNTT様と一緒に取り組み、東海では事故ゼロをめざして行きたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

最後になりますが、今回の大会を準備いただきました皆様、本当にありがとうございます。本日、皆様にとって良い体感ができることを祈念いたします。

4. 安全講話

開会式に続いて、静岡英和学院大学短期部 現代コミュニケーション学科教授の重森 雅嘉先生より「ヒューマンエラーの認知科学」と題してご講演をいただきました。

うっかりミスのみかニズムを理解することで、失敗する前に気づきミスを防ぐといった内容で、普段の生活の中での無意識の行動や幾つかの課題をゲーム感覚で一緒に実施するなど、非常に分かりやすく興味あるご講演をいただきました（写真5）。

5. 危険体感

今大会における危険体感の参加者（スタッフ除く）は、約240名で、NTTフィールドテクノ様を中心としたNTT西日本グループ各社様、ITEA東海支部会員各社の現場作業者および現場における安全指導者層ですが、各社様の新入社員の皆様にも積極的に参加していただきました。

□実施前における各体感コーナーの紹介プレゼンテーション

安全講話に引き続いて、これから実施する各体感コンテンツの概要について説明がありました。

過去の事事故事例、対策、体感内容、体感時の注意等の説明を行いました。実際に体感する前に予備知識を得ておくことで、体感内容の理解を深め、かつ、より多くの方に体感していただくことができました（写真6）。

体感の種類は、「ツアー体感：6件」「フリー体感：2件」の2種類を設定し、「実演コーナー」および「展示コーナー」を設けました。

体感参加者は事前に、約20名で構成される個々の班（合計12班）に所属していただきました。それぞれの班は、各体感コーナーを班別に決められた時間ごとにローテーションしてもらい、全体感コーナーを全員が体感できるように工夫しています。基本的に「危険体感」は各コーナー20分/班、「展示コーナー」は60分/班と設定しました。8つの危険体感コンテンツを表2と実演コーナーを表3に、その実施模様を表4に示します。

「危険体感コーナー」は、NTT西日本東海エリア各支店様とITEA東海支部会員各社の専門メンバーが最近発生した事故も考慮に入れ、議論



写真5 重森 雅嘉教授 安全講話



写真6 各体感コーナー 事前プレゼン模様

表2 「体感コンテンツ」一覧

◆ツアー体感	◆フリー体感
① 屋根裏転落危険体感	I 所内作業の短絡・静電気体感
② 脚立からの転落体感	II 事故映像視聴とVRによる危険体感
③ 梯子からの転落体感	
④ バケット車の逸走体感	
⑤ 建柱車安全作業範囲体感	
⑥ 安全な屋根上作業体感	

表3 「実演コーナー」一覧

① 衝撃に強い電柱の紹介デモ・実演

表4 危険体感の実施模様

ツアー体感コーナー	① 屋根裏転落危険体感			<ul style="list-style-type: none"> ○「天井裏に入場しての作業は禁止」の本質理解 ○屋根裏からの落下・転落の恐怖を体感
	② 脚立からの転落体感			<ul style="list-style-type: none"> ○脚立作業での作業8禁をもとに以下を体感 <ul style="list-style-type: none"> ・脚立が傾き、バランスを崩し転落を体感 ・脚立が開き、バランスを崩し転落を体感
	③ 梯子からの転落体感			<ul style="list-style-type: none"> ○立て掛け角度が適正でない作業中で、梯子が滑って転落する危険を体感
	④ バケット車の逸走体感			<ul style="list-style-type: none"> ○輪止めの重要性、坂道発進補助装置の構造を解説 ○バケット車逸走の大きな力を体感（綱引き）
	⑤ 建柱車安全作業範囲体感			<ul style="list-style-type: none"> ○事故概要と事前確認事項の説明 ○吊り荷重量とセーフティーゾーン設置の説明 ○セーフティーゾーンとモーメントリミッター動作状況の体感
	⑥ 安全な屋根上作業体感			<ul style="list-style-type: none"> ○屋根上乗り移りに使用の改良型バケット昇降具の安全性、利便性体感 ○滑り止め靴併用による、さらなる安全性向上の体感
フリー体感コーナー	I 所内作業の短絡・静電気体感			<ul style="list-style-type: none"> ○以下の3つのコンテンツを体感 <ul style="list-style-type: none"> ・ネジを外すときの危険性 ・静電気の危険性と対策方法 ・-48V接触棒先端の導線によるショート
	II 事故映像視聴とVRによる危険体感			<ul style="list-style-type: none"> ○過去の事故より、高所作業中のバケット車からの転落事故をVRと組み合わせて体感 ・再現動画視聴+VRによる体感
実演コーナー	① 衝撃に強い電柱の紹介デモ・実演			<ul style="list-style-type: none"> ○衝撃に強い電柱に対して、落下衝撃実験のデモンストレーション ○大ハンマーによる打撃体感

表5 「展示コーナー」出展社（敬称略） ※全36社

アンリツ、カヤ産業、泉州電業、高千穂産業、テレック吉安、横河計測、TERADA、NDS、シーキューブ、エクシオグループ、ミライトワン、アイチコーポレーション、日本コンクリート工業、タダノ、コーニングインターナショナル、ジャパンリーコム、日本通信電材、住友電気工業、住電オプコム、住友電工オプティフロンティア、大日コンクリート、東名通信工業、トーツー創建、OCC、マルノ機販、タカコム、フジクラ、スズキ技研、イワブチ、大東電材、渡辺製作所、古河電気工業、正電成和、岡野電線、NTTレンタル・エンジニアリング、ピカコーポレーション

を重ねて体感セットを準備し、当日の運営を行いました。

「体感コンテンツ」は、管内や全国で最近発生した重大人身事故等を考慮し8コーナーを選定しました。

□展示メーカー各社様による安全ツール等の紹介および通信建設会社によるVE提案等の紹介

NTTグループ1社、通信建設会社4社、他通信電線線材協会会員会社様展示メーカー様31社を含む36社のご協力により各社様のツール等に関する展示をいただきました。ま

た、東海エリアで事業を展開する通信建設会社様によるVE提案等の展示、紹介もいただき、多くの参加者に興味を持っていただきました。参加していただいた会社様を表5に示します。

6. 終わりに

今年の大会は雨の心配がありましたが、途中で雨も上がり、予定していた体感コンテンツを無事すべて実施することができました。

閉会式では、ITEA東海支部の久保園副支部長より「ぜひ、本日の体感をベースとした安全推進大会を安全に活かしていただきたい」との閉会の挨拶を受けた後（写真7）、NTTフィールドテクノ名古屋事業部社員、ITEA東海支部会員会社社員による指差呼称を実施し、安全推進大会を終了しました（写真8）。

最後に今大会の準備・運営にご協力を賜りました関係の皆様へ感謝申し上げます。



写真7 ITEA東海支部
久保園副支部長 閉会挨拶



写真8 安全唱和